

# 小中学生の「テレビ視聴」および「インターネット利用」における親の介入の差異

Differences in Parental Involvement Regarding Television Viewing and Internet Use  
Among Elementary and Junior High School Students

水野 一成\*、近藤 勢津子\*、吉良 文夫\*  
Kazunari MIZUNO\*、Setsuko KONDO\*、Fumio KIRA\*  
NTT ドコモ モバイル社会研究所\*  
NTT DOCOMO Mobile Society Research Institute\*

**要約:** 本研究では、小中学生がインターネットを利用する時と、テレビを視聴する時に、親の介入に差異が生じているかを明らかにすることを目的とした。調査の結果、介入のスタイルとして共に「共視聴」「指示」「制限」が確認できた。また、インターネット利用は「制限」、テレビ視聴は「共視聴」の介入が高い傾向が見られた。さらにクラスタ分析により、「高介入」「共視聴/制限」「低介入」は共通していたが、インターネット利用は「制限」、テレビ視聴は「共視聴」と異なるクラスタが確認できた。また、親の介入度合いは、得点間の相関についてはで見ると、インターネット利用とテレビ視聴との間で、「制限」は高い相関が確認できたが、「共視聴」の相関は高くなかった。このように一部介入スタイルに差が確認できたことを報告する。

**キーワード:** 量的研究、親の介入、インターネット利用、テレビ視聴

## 1. はじめに

スマートフォンを利用している児童・生徒の増加およびGIGAスクール構想の本格始動により、インターネット利用が拡大している。子どもがインターネットを利用することに対し、保護者の期待として、調べ学習やコミュニケーション活性化などがあげられる。一方で、依存等の健康影響や対人トラブルへの心配多くの親が感じている。

本研究の目的は、2024年11月実査に基づき、小中学生のインターネット利用時とテレビ視聴時ににおける保護者の介入の比較および差異の明確化である。

親の介入に関する設問は、Valkenburg (1999)らが子どものテレビ視聴に対する保護者の介入スタイルを、菅原ら(2018)が和訳したものと、それを基に、栗原ら(2020)がテレビ視聴の部分をインターネットに変え、ICT版として作成したものである。設問は9問4件法（全くない・たまに・時々・いつも）である。

## 2. 調査概要

調査対象：2024年11月  
調査対象：全国、小中学生の親  
調査方法：訪問留置法  
標本抽出法：層化二段抽出 性別・学年・地域・都市規模で割付  
回答数：1,300組（小中学生とその親）

## 3. 調査結果

(1) インターネットの利用及びテレビの視聴  
インターネットを利用している（学習以外）小中学生は95.3%、テレビ番組を視聴している小中学生は、81.7%であった。

(2) 因子分析  
インターネット利用及びテレビ視聴、それぞれの介入に関する設問の結果を基に因子分析を実施（抽出方法は主因子法、回転法はバリマックス法）。固有値1以上で抽出した結果、それぞれ3因子「共視聴」「指示」「制限」を確認した（表1、2）。

(3) 得点化  
それぞれの因子に関連する設問3問ずつの回答

表1 インターネット利用 因子分析

	共視聴	指示	制限
子どももあなたも好きなサイトや動画と一緒に見る	0.89	0.17	0.13
子どももあなたも興味を持っているサイトや動画と一緒に見る	0.89	0.18	0.12
ただ楽しむために子どもと一緒にサイトや動画を見る	0.79	0.21	0.10
サイトや動画で映っていることの本当の意味を説明する	0.20	0.83	0.14
サイトや動画に出てくるキャラクターの真意・動機について説明する	0.19	0.79	0.13
サイトや動画に出てくる人がする悪い（よくない）行いについて、その理由を説明する	0.16	0.71	0.24
サイトや動画を見てよい時間量（一日〇〇分など）を決めている	0.10	0.09	0.86
サイトや動画を見てよい時間帯を決めている	0.12	0.18	0.81
特定のサイトや動画を見ることを禁じている	0.10	0.30	0.41

表2 テレビ視聴 因子分析

	共視聴	指示	制限
子どももあなたも興味を持っているテレビ番組と一緒に見る	0.94	0.16	0.06
子どももあなたも好きなテレビ番組と一緒に見る	0.89	0.17	0.10
ただ楽しむために子どもと一緒にテレビ番組を見る	0.78	0.18	0.10
テレビ番組に出てくるキャラクターの真意・動機について説明する	0.15	0.83	0.18
テレビ番組で映っていることの本当の意味を説明する	0.15	0.83	0.16
テレビ番組に出てくる人がする悪い（よくない）行いについて、その理由を説明する	0.24	0.67	0.21
テレビ番組を見てよい時間量（一日〇〇分など）を決めている	0.07	0.08	0.97
テレビ番組を見てよい時間帯を決めている	0.15	0.18	0.75
特定のテレビ番組を見ることを禁じている	0.03	0.26	0.50

表3 因子に関わる設問の平均点と標準偏差

	平均点		標準偏差			
	指示	制限	共視聴	指示	制限	共視聴
インターネット利用	6.9	8.5	7.8	2.1	2.6	2.2
テレビ視聴	7.4	7.1	9.1	2.0	2.7	2.0

表4 インターネット利用 クラスタ分析

クラスタ	高介入	共視聴/ 制限	制限	低介入
因子	共視聴	0.49	0.67	-1.09
	指示	0.80	-0.81	-0.01
	制限	0.14	0.24	0.70
得点 (12-3 点)	共視聴	9.2	9.0	5.6
	指示	8.8	5.5	6.7
	制限	9.5	8.9	10.0
構成比(%)	全体	34.7	26.6	19.5
	小1～小3	40.9	26.2	19.4
	小4～小6	37.7	28.2	19.2
	中1～中3	25.9	24.7	19.8
				29.6

表5 インターネット利用 クラスタ分析

クラスタ	高介入	制限/共 視聴	共視聴	低介入
因子	共視聴	0.00	0.30	0.50
	指示	0.77	-0.72	-0.15
	制限	0.52	1.01	-0.97
得点 (12-3点)	共視聴	9.5	9.6	9.9
	指示	9.1	6.5	6.9
	制限	8.9	9.2	4.8
構成比(%)	全体	33.4	20.6	33.1
	小1～小3	41.3	26.2	22.3
	小4～小6	33.3	21.9	34.7
	中1～中3	25.3	14.6	41.6
				18.5

結果を基に得点化（「全くない」1点、「たまに」2点、「時々」3点、「いつも」4点 各3問 計3点～12点）を実施。表3の通り、インターネット利用は「制限」、テレビ視聴は「共視聴」の得点が高い（高い介入）。なお「制限」は標準偏差が他の2つの因子に関わる設問より大きい。

#### (4) クラスタ分析

3因子を基にそれぞれクラスタ分析を行った結果、「高介入」「共視聴/制限」「低介入」は共通していたが、インターネットは「制限」、テレビ視聴は「共視聴」が別々に表れた。また、両方の介入も学年が上がると低介入の割合が増えている（表4・5）。

(5) インターネット利用とテレビ視聴への親の介入得点間の相関係数

設問毎の得点と両介入の相関係数を見ると指示が最も高く0.69、制限は0.56、共視聴は0.37であった。

#### 参考文献

- (1) NTT ドコモ モバイル社会研究所ホームページ (2025.9.25), <https://www.moba-ken.jp/whitepaper/wp24/chap7.html>
- (2) Valkenburg, P. M., Krcmar, M., Peeters, A., & Marseille, N. M. (1999). Developing a scale to assess three styles of television mediation: "restrictive mediation," "instructive mediation," and "social coviewing." Journal of Broadcasting and Electronic Media, 43, 5266.
- (3) 栗原俊介、吉良文夫、菅原ますみ、飽戸弘日本社会心理学会第61回大会（2020）「モバイルライフスタイル研究 2-保護者の介入スタイルと小中学 生のICT 利用の関係-」発表論文集,175